

第1章 流域の自然状況

1-1 河川・流域の概要

雲出川は、三重県の中部に位置し、その源を三重県津市と奈良県宇陀郡御杖村の県境に位置する三峰山（標高1,235m）に発し、八手俣川等の支川を合わせながら東流し、伊勢平野に出て波瀬川、中村川等を合わせて、その後、雲出古川を分派して、伊勢湾に注ぐ、幹川流路延長55km、流域面積550km²の一級河川である。

雲出川流域は、三重県の県都である津市をはじめとする2市1村からなり、八手俣川、中村川、波瀬川等総計40の法河川を有している。

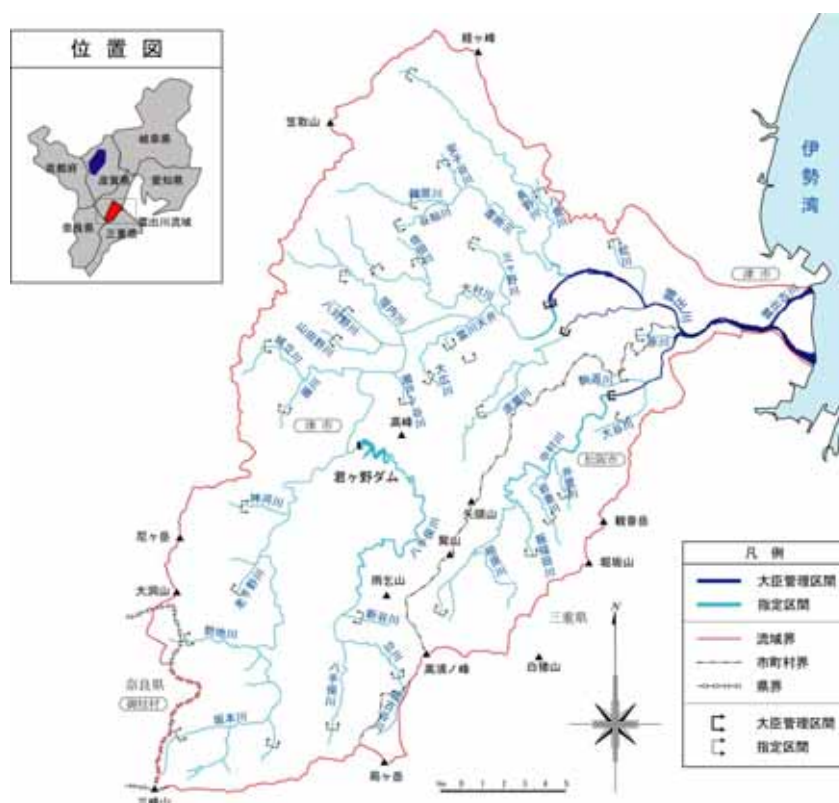


図1-1 雲出川流域図

表1-1 流域の諸元

項目	諸元	備考
幹川流路延長	55km	全国 90 位
流域面積	550km ²	全国 86 位
流城市町村	2市1村	(三重県) 津市、松阪市 (奈良県) 御杖村
流域内人口	約 8.7 万人	
支川数	40	

1-2 地形

雲出川流域は、山地により大部分が占められ、三峰山から北北東に横たわる^{ぬのびき}布引山脈と、東に横たわる^{たかみ}高見山地、更に^{つぼねがたけ}局ヶ岳から北東に分布する山々によって挟まれた典型的な扇状形の地形である。

上流域は、高見山地に含まれた600~1000m級の山に囲まれ山地を蛇行し、平地は谷底平野としてわずかに見られるにすぎない。中流域に入ると、なだらかな丘陵地形となり、下流域は、伊勢平野の中を大きく蛇行しつつ流下する。中~下流域の蛇行した流れは浸食と堆積を繰り返し、河岸段丘や沖積平野を形成し、河岸段丘上には市街地が広がっている。特に左岸の旧久居^{ひさき}市街地全体をのせる段丘はよく発達している。

河口部は、雲出古川が本川から分流し、規模の大きなデルタ地帯が広がり、津市香良州町沿岸部には砂浜も見られる。

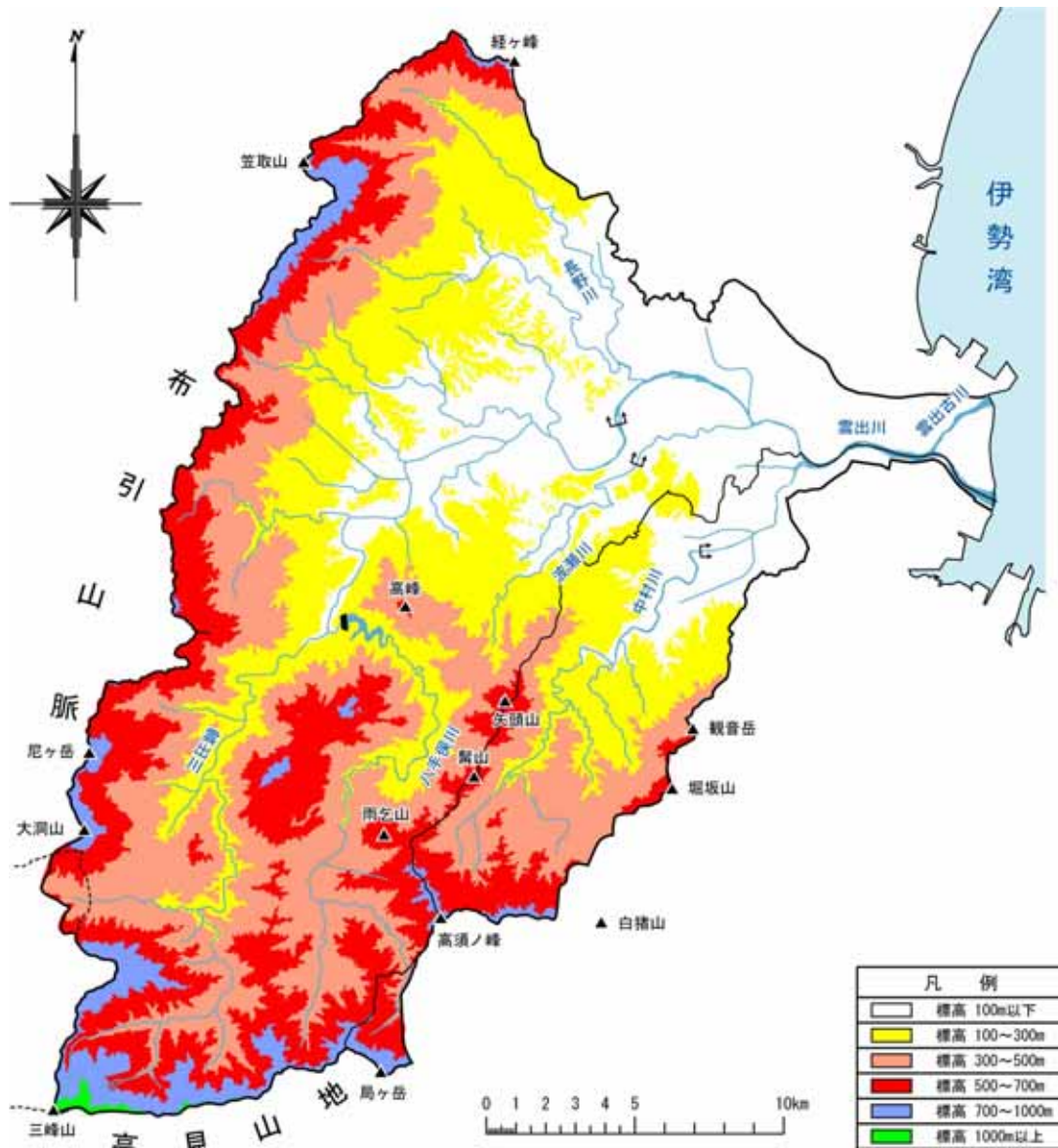


図1-2 雲出川流域地形図

1-4 気候

雲出川は布引山脈や高見山地からなる山間部から丘陵地帯を経て平野部を形成する典型的な扇状形の地形であり、流域の状況は中上流部の山間、丘陵部と下流部の平野部に大別される。

雲出川流域は、年平均気温 16℃程度で、全体的に温暖な気候を示している。雲出川流域の昭和 59 年～平成 15 年までの平均年降水量は上流山間部で 2,200mm を超え多くなっており、下流平野部では 1,600～1,800mm である。流域平均の年降水量は約 2,000mm で、全国平均の 1,718mm(昭和 46 年～平成 12 年「日本の水資源」より)よりもやや多い。年間の降雨量は 5～6 月の梅雨期及び 9 月の台風期に集中している。



図 1-4 年平均降水分布図 (S59～H15 年平均：欠測年は除く)

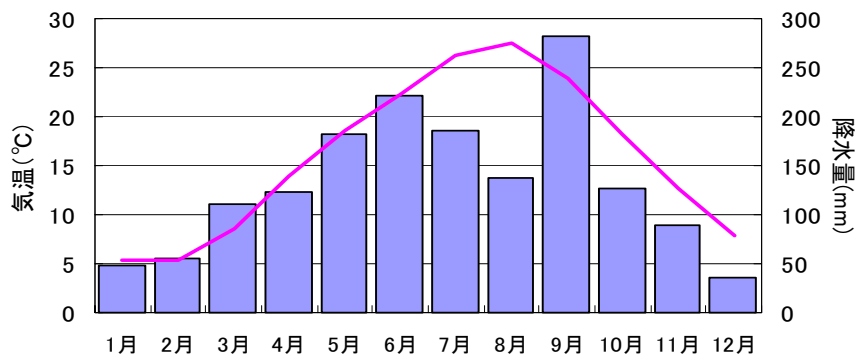


図 1-5 月別平均気温・降水量 (津地点：S59～H15 年平均)